
扉

桜くらげ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
扉

【Nコード】
N2884P

【作者名】
桜くらげ

【あらすじ】
短編集です。宜しくお願いします。

一の扉（前書き）

短編集ですので気軽に読み切ることが出来ます。

一の扉

扉

死後の扉を開けたら、こんな光景が見えた。

俺は暗い部屋の片隅で、ある女を待っていた。女は何時も障子に指で穴を開け、長く綺麗な睫まつげと凜とした漆黒の眸ひとみで此方を見つめている。

?? 今日も女は夜も静まる頃、行灯あんどんを片手に長く綺麗な睫毛と眸で俺を見つめるだろう。こんな日々を飽きもせず、お天道様が暮れては三日月が昇る、日は昇り、暮れて、偃月が昇る。何時も俺は待っている。女を待っている。

?? 今日満月である、夜も老け丑三つ時。鈴虫も泣き止んでいる。?? 障子の向こう側からは、小さく揺れている灯りが此方へ向かってきた。女は障子に指で穴を開けた。女は綺麗な睫毛と深い黒色の眸を覗かしている。ああどうしたのだ、と問うたら女は初めて声を発した。弱々しく、今にも消えてしまいそうに綺麗だった。私を知っていますか、と女は云った。知っているぞと返したら女は嬉しそうに、そうですかと答えた。続けて女は、回廊に坐って（すわって）満月を見ませんかと言った。俺はそれも良いなと言った。

?? 月光に映される漆黒の眸は澄んでいて、女の長い髪の毛は月光に照らされる度々に、白梅香が匂った。女は満月に指差した後、俺に久しぶりですねと言った。俺はなんのことが解らないが、そうだなと答えた。女嬉しそうな顔をしている。

?? 庭の池には錦鯉が二匹泳いでいる。錦鯉は中睦まじく、互いに互いを追いかけていた。池の湖面には緩やかな波紋により満月が揺れていた。

?? 女は、貴男が好きな白梅香を付けてきました、と深い黒色の眸を此方に向けて云った。俺は、良い匂いだな、と女に答えた。女

は照れたように顔を振袖の生地で顔を覆った。？

?? 女は次第に哀しい顔をしてこう云った。私はもう行かなければなりません。俺は、どうしてだ、と問うと、女は、ただ仕方ありませんよと答えた。女は続けて、何時になるか解らないけれど、また会いに来ますその時まで待っていてくださいと云った。俺は、仕方無いなと答えた。

?? 女は庭の池へ向かう。揺らめく満月浮かぶ池へ。女の体が体の半分まで浸かったところ、此方へ振り返り微笑みながら、何時になるか解らないけれど、また会いに来ますその時まで待っていてくださいと云った。続けて女は大事なことから、二回云いましたと漆黒の眸を細めて云った。

?? 女は池に入ったまま出てくることは無かった。

?? 池の錦鯉は弧を描くように水飛沫をあげて跳ねた。

俺はそれから待ち続けた。空の色は明るくなり、暗くなる、お天道様は昇り、日が暮れ、新月が周り満月になる、またお天道様が昇れば月が昇っていく。

?? いつしかどれだけの時間を待ったかも忘れていった。季節も数えきれないほど変わっていった。

?? 俺は女の黒色の眸を思い出した。長い髪を思い出した。白梅香の匂いを思い出した。？

?? 今日雨が降っている。今日は晴れている。今日は枯葉が舞っている。今日は雪が降っている。

?? 何十年目のある日の丑三つ時、障子を閉める音がした。俺は恐る恐る障子に指で穴を開けて覗くと、女が坐っていた。女は凜とした漆黒の眸を此方に向けて、どうしたのと云った。俺は、私を覚えていますかと女に聞いた。？

女は勿論と云った。俺はまた現世に行くことを思い出した。？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2884p/>

扉

2010年12月3日21時55分発行